

避難所からの要請で 読経ボランティア

龍谷大学大学院・実践真宗学研究科

被災者支援の活動報告会開く



4月8日、宮城県南三陸町の避難所からの要請で行われた読経ボランティアの様子。手前左端が鍋島直樹教授

感じたことがない重い空気が流れていた。瓦礫の中に花束を供えに来ていた女性に出会ったが、女性は顔を伏せて泣き続けていた。かける言葉がなかった」と語った。

◇ 龍谷大学（赤松徹眞学長）は4月22日、東日本大震災の義援金1678万4659円を

鍋島教授。4人は3月25日から4月10日にかけて、個別に活動。避難所への支援物資の搬送や炊き出し、津波で甚大な被害を受けた宮城県石巻市・称法寺（細川雅美住職）と仙台市宮城野区・専能寺（足利一之住職）の復旧支援と、避難所からの要請で遺体安置所での読経ボランティアなどを行った。

川端さんは「単独でのボランティアだったのが、見知らぬ人と手を携えての活動に、人と人がつながる大切さをあらためて学んだ」と話し、岩田さんは住民の半数が行方不明となっている同県南三陸町の様子を「毎日、遺体を発見したという言葉を耳にした。今までの沖麻美さんは「被災

東日本大震災でボランティア活動に携わった龍谷大学大学院実践真宗学研究科の学生が4月25日、京都市下京区の同大学大宮学舎で活動報告会を開いた。

「被災された方の深い悲しみに寄り添い、亡くなった方を悼み、いのちを見つめていく姿勢は真宗者が学ぶべき重要なことと、自らもボランティアに加わ

った鍋島直樹同大学教授の特別講義として開催。一般公開され、200人が聴講した。

報告者は大学院生の川端勝さん、岩田彰亮さん、西池深音さんと

聴講した同大学3年